

戦略的創造研究推進事業  
(社会技術研究開発)  
平成29年度研究開発実施報告書

「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」

研究開発領域

「多専門連携による司法面接の実施を促進する

研修プログラムの開発と実装」

仲 真紀子  
(立命館大学、教授)

## 目次

1. 研究開発プロジェクト名 .....	2
2. 研究開発実施の具体的内容 .....	2
2 - 1. 研究開発目標 .....	2
2 - 2. 実施内容・結果 .....	3
2 - 3. 会議等の活動 .....	15
3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況 .....	19
4. 研究開発実施体制 .....	20
5. 研究開発実施者 .....	22
6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など .....	24
6 - 1. シンポジウム等 .....	24
6 - 2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など .....	27
6 - 3. 論文発表 .....	30
6 - 4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表） .....	31
6 - 5. 新聞報道・投稿、受賞等 .....	33
6 - 6. 知財出願 .....	34

## 1. 研究開発プロジェクト名

多専門連携による司法面接の実施を促進する研修プログラムの開発と実装

## 2. 研究開発実施の具体的内容

### 2 - 1. 研究開発目標

本プロジェクトでは、以下の活動を行い、アウトプット（成果物）の達成を目指す。

#### (1) 研修

実務家が司法面接と多専門連携を体験し、習得できる研修を年3回実施する。各研修は各回24人を上限とし、2日間のプログラムにより実施する。3年間に9回の研修を行い、少なくとも計216人にトレーニングを行う。

なお、「採択にあたっての留意点③：予防的に司法面接の手法が導入できるような方策を検討して研究開発に盛り込んでください」を取り入れ、専門家や実務家に対する研修のみならず、学校関係者、保護者等にも「子どもの話す力を伸ばす」ための知見提供や、簡易研修を計画し、実施する。

#### (2) トレーナーの育成

司法面接研修を受けた者に研修スタッフとして参加してもらい、トレーナーとして育成する。また、こういったトレーナーが各機関等で研修を行えるように面接キットの作成、提供、技術支援を行う。期間中に少なくとも2人のトレーナーを育成する（トレーナーとなる動機づけをもち、持続して技能習得が行えるものは50人に1人程度（LeBlanc, 私信）、トレーナーはより少ないと推定される）。

#### (3) 司法面接の支援

現実の司法面接ならびに多専門連携の支援を行う。支援は、面接室や機材の提供、連携のコーディネート、司法面接の計画、実施、バックスタッフ支援、ならびに評価を含む。年間数件の事案が見込まれるが、これらにつき、個人情報に立ち入らないかたちで支援の効果、結果を蓄積する。特に、連携が正確な聴取、精神的負担を下げるのかについて、事例的な検証を試みる。

なお、「採択にあたっての留意点⑤：児童虐待のみならず、他の事案へ展開できるような方策を検討してください。」を受け、事例に関しては、虐待事例にとどまらず、DV事案、高齢者・知的障害者の虐待事案、いじめ事案、家事事件における意向調査等、広く対応する。

#### (4) 基礎研究

司法面接の実施に関わる基礎研究を行う。具体的には、本プロジェクトの中心事項である「司法面接や多専門連携に関する意識（研修前後の変化ならびにパフォーマンスとの関連を含む）」、外国人被害児童が増加していることなどから「通訳・仲介者を介した面接」について、被害児童においては心理臨床的な支援も欠かせないことから「司法面接と

心理臨床の連携」について、実証的な知見を得る。これらの知見は研修に反映させる。また、研修で得られたフィードバックを基礎研究に投入する。

なお、「採択にあたっての留意点③：予防的に司法面接の手法が導入できるような方策を検討して研究開発に盛り込んでください」を取り入れ、子どもの報告の促進に関わる知見を収集し、必要に応じて実験的にも検討する。

## 2 - 2. 実施内容・結果

### (1) 実施内容

#### 【仲グループ】

#### 1. 今年度の到達点①：立命館大学における司法面接室の設置

##### 実施項目①

- 北海道でのモデルを関西において実施するために、司法面接支援室を設置した。
- 司法面接室の面接録音録画観察システムの精度を高めるために、手元を写すカメラを導入した。

#### 2. 今年度の到達点②：プログラムの開発と知識・技能の提供・維持

##### 実施項目②-1

- プログラムの開発・改善：要素研究，研修でのフィードバックを受けて，プログラムの開発・改善を行った。
- 司法面接研修：立命館大学で7月と9月，2日間の司法面接研修を実施した。

##### 実施項目②-2

- トレーナーの育成：立命館大学で7月と9月，2日半のトレーナー育成研修を実施した。
- #### 3. その他，以下の活動を行った。
- 現実の事例支援
  - 発信・アウトリーチ・提言
  - 多専門連携による司法面接の普及・定着に向けた事業モデルの在り方の検討

#### 【羽渕グループ】

#### 実験研究Ⅰ・Ⅱ

#### 1. 今年度の到達点①：通訳介入が必要な外国人に対する司法面接法の開発

##### 実施項目

- 通訳介入時の司法面接のガイドラインの作成（8～9月）
- 通訳者を対象とした司法面接研修プログラムの開発と研修（8月～9月）
  - ・ 情報収集，研修案の作成，実務家からの意見収集
  - ・ ワークショップ開催（仲班，田中班，羽渕班合同）
- 日本語教育関係者を対象とした司法面接研修（11月）
  - ・ ワークショップ開催（仲班，羽渕班合同）
- 効果測定

- ・ ワークショップ参加者に事後アンケートを実施
- ・ 研修で得られたデータ、記録等を用いた分析と改善

## 2. 今年度の到達点②：やさしい日本語版SAI（Self-Administered Interview）の効果測定と実装

### 実施項目

- 有用性の評価と検討（6～7月，10月，2～3月）  
※計画ではオーストラリアでおこなう予定であったが，日本国内での実施が可能となったので変更して実施。
- 汎用性の評価と検討（日本人児童を対象とした実験）  
※小学校教員より質問紙の情報量が多すぎるというアドバイスを受け，子ども向けに修正することを検討した。質問紙の改良のため，実施が遅れている。
- 現場（警察署，日本語学校，小中高等学校，補習授業校，フリースクール，大学など）でのユーザビリティ調査  
※協力先の調整がつかず，保留中。

## 3. 今年度の到達点③：日本語を母語としない対象者の日本語会話能力を簡便に査定する方法の開発

### 実施項目

- 簡易版日本語口頭能力判定ツールの開発
  - ・ インタビュー調査（4月～2月）
- 現場でのユーザビリティ調査
  - ・ 広報活動により，実務場面（警察，教育機関，一般企業など）での利用を打診（協力先が決まらず，実施が遅れている）

## フィードバック（社会実装）

実務家参加型の研修会や研究会を通して，現場のニーズの把握と，研究開発した成果物に対するフィードバックを得て社会実装を図った。

- やさしい日本語SAI広報活動  
司法面接のトレーナー研修およびトレーナー報告会などの機会を利用して広報。
- 外国人が対象者となる場合の司法面接ワークショップを開催
- メディエーターとなる専門家，教育関係者に向けたシンポジウムを開催
- 研究成果の学会発表

### 【田中グループ】

#### 1. 今年度の到達点①：心身のケアを含む多機関連携を促進するプログラムの開発と研修・実施

##### 実施項目①心身のケアを含む多機関連携を促進するプログラムの開発と研修・実施

実施内容：これまでの研修参加者のアンケート分析，要素研究，海外での多機関連携研修資料の検討をふまえ，より実践的な心身のケアを含む多機関連携を促進するプログラムを提案し，プログラムについての検討会を企画・実施した。

## 2. 今年度の到達点②：地域での継続的な連携の場の提供

### 実施項目②小規模な勉強会を立ち上げ、地域での継続的な連携の場の提供

実施内容：地域での継続的な連携につながる手法について小規模の勉強会を実施した。今年度は田中班を中心としたメンバーによる、先進的取組を行っている実務家や心理臨床領域の研究者への聴取、医療機関へのフィールドワークを実施した。

## 3. 発信・アウトリーチについて

学会でのワークショップ企画（10月 法と心理学会を予定）

講演や研修等を通じて司法面接的アプローチの周知活動等

実施内容：仲班・羽瀧班と協働のもと、学会でのワークショップ等を企画・実施し、要素研究の成果等について発信した。また、これまでに実施した司法面接と心身のケアの連携に関する実務家研修（4回分）における質問票への回答をとりまとめ、質問票回答集として冊子化し、司法面接に関わる実務家に配布した。

警察・家庭裁判所の依頼による司法面接研修を実施し、性犯罪捜査、家事事件での子どもからの聴取への司法面接の適用支援を行った。加えて、教員免許更新講習や教育委員会の依頼による教職員対象の講演や簡易研修、幼児の保護者を対象とした知見の提供を行った。

## 4. 要素研究について

実施内容：心身のケアを行う専門職を対象に、事実確認（司法面接）に関する認識について分析・調査を実施した。また、聴取法により子どもから得られる情報の違いに関する実験的研究の分析を行った。さらに、教職員を対象とした虐待通告に関する意識調査を実施し、分析を行った。また、教員養成課程の学生を対象とした虐待通告に関する意識調査の結果を分析し、結果を論文にまとめた。多職種連携にかかわる実践の具体と今後に向けた展望に関するアンケート調査を質的に分析し、よりよい多職種連携のありようについて検討した（投稿予定）。「子どもの司法面接とケア」についての知見をまとめ、書籍に執筆した。

### （2）成果

#### 【仲グループ】

### 1. 今年度の到達点①：立命館大学における司法面接室の設置

#### 実施項目①

- 司法面接室の設置：北海道でのモデルを関西において実施するため、2017年4月に立命館大学総合心理学部に司法面接支援室を開設した。2つの実験室を借り受け、録音録画が可能な面接室と、モニター室を設置した。研究員2名、事務員1名を雇用し活動を行っている。
- 遠景ならびに手元がとれる録音録画システムの構築：従来の司法面接室では、主として面接者と児童のみを録画していた。しかし、児童が部屋を歩き回るなどしても子どもの姿を捉えることができるように、部屋全体を写すカメラが必要である。また、面接の最中、児童が配置図などを描くことがある。口頭で説明しながら描くよ

うな場合、この過程を録音録画しておくことが重要である。そこで、新しい司法面接室では、近景に加え遠景、ならびに手元を録音録画できるシステムを構築した。

## 2. 今年度の到達点②：プログラムの開発と知識・技能の提供・維持

### 実施項目②-1

- プログラムの開発・改善：要素研究，研修でのフィードバックを受けて，プログラムの開発・改善を実施した。具体的には，以下の活動を実施した。
  - (1) 連携を阻む要因の意識化とリフレーミングを行う。
  - (2) 多専門連携によるグループワークとディスカッションを促進した。具体的には「面接の計画」「バックスタッフ演習」「得られた成果をどう活かすか」の各段階で，3分ずつのディスカッションを設けた。なお，バックスタッフ演習とは，（他のグループの）録音録画を振り返る際，自分がそのチームのバックスタッフだとしたらどのように支援するかを考え，チーム内でディスカッションし，職種による目のつけどころや必要とする情報の違いを体験するというものである。本年度から積極的に実施している。
  - (3) 可能な場合は，同地域の多機関職員によりグループを形成した。
- 司法面接研修：第一回目は8月1-2日，第二回目は9月12-13日，立命館大学で2日間の司法面接研修を実施した。参加者は各回37名であった。

### 実施項目②-2

- トレーナーの育成：第一回目は7月31日-8月2日，第二回目は9月11-13日，立命館大学で2日半のトレーナーの育成研修を実施した。参加者は各回9名であった（トレーナーは上記研修にスタッフとして携わる）。
- トレーナー報告会：1月20-21日，トレーナーが集合し，研究報告，意見交換を行った。
- 司法面接ならびに司法面接に関する情報収集：韓国のワンストップセンター，サンディエゴ家族・児童虐待会議，英国中央刑事裁判所において情報収集を行った。

## 3. 現実の事例に対する知識やスキルの使用の支援

- 現実事例の支援：現実事例の支援を引き続き実施した。

## 4. 発信・アウトリーチ・提言

- 会議等：司法面接Round Tableを2017年12月に台湾で実施し，日本の状況につき状況を説明した。
- 冊子等：立命館大学で作成するRADIANT（広報誌）の2018年March号に協力した。
- JMOOC（動画媒体による発信）を通じて司法面接に関する講義を提供した。  
[https://lms.gacco.org/courses/course-v1:gacco+ga100+2018\\_03/about](https://lms.gacco.org/courses/course-v1:gacco+ga100+2018_03/about)
- 学校現場へのアウトリーチ：学校では，「いじめにより当該学校に在籍する児童等が相当の期間学校を欠席することを余儀なくされている疑いがあると認めるとき」（法28条第1項第2号）にはこれを重大事態と捉え，重大調査委員会が設置される。札幌市重大事態調査委員会において，司法面接の方法を取り入れた面接を用い，報

告書に学校場面での聴取法モデルを呈示した。

「児童等に関する重大事態調査検討委員会(2007). 札幌市立中学校における重大事態調査報告書【公表版】平成29年1月」(付録4)

<http://www.city.sapporo.jp/kyoiku/sidou/jidouseito/huzokukikan/huzokukikan.html>

- 障害者福祉現場へのアウトリーチ：厚生労働省で策定中の「指定障害福祉サービス事業者等への指導監査の在り方に関する調査研究報告書ガイドライン」の作成に協力し、障害者・高齢者等の施設において事実調査が必要な場合の聴取法モデルを呈示した。
- 大岡PJへの協力：大岡PJによる「兵庫県性教育研究会」に参加協力した（2017年11月2日，神戸市勤労会館）。
- 田村PJへの協力：田村PJによる「児童虐待事案における警察の刑事的介入の現状と課題」にパネラとして参加協力した（2018年2月22日：グランドアーク半蔵門3階「華」）。

## 5. 要素研究

- 多専門連携を阻む要因を理解し，連携を促進するために，以下の要素研究を実施した。
  - ・ 文献研究：最近の司法面接に関する国内での研究，国外での研究をレビューし，前者は「児童心理学の進歩」，後者は「心理学評論」に論文を執筆した。特に，非開示（相当の証拠があっても被害を打ち明けない子ども）に対する対応につき論考した。
  - ・ 実験研究：録音録画の際のカメラパースペクティブにつき，実証研究を行い論文として公表した。
  - ・ 調査研究：身体的虐待，性的虐待，心理的虐待，ネグレクトとなり得る仮想的な虐待事案25件につき，その重篤性と対応法につき，福祉司，心理司，司法関係者（警察，検察）の意識を調査し，報告した。
  - ・ その他：研修の効果，通告に関する調査について引き続き資料を収集中である。

## 6. 多専門連携による司法面接の普及・定着に向けた事業モデルの検討

- 現状把握と今度の課題：司法面接における多専門連携への道のりや，好事例につきインタビューによる調査を行い，成果を冊子のかたちにとどめる。3月中に調査，原稿化を行い，5月上旬までには印刷の予定である。
- 協同面接の実態：厚生労働省HP等より資料を収集した。
- 司法面接研修に対する実務家の意識：本プロジェクトで提供する司法面接研修の意義，独創性，他と差別化できる点等につき，情報を収集中である。
- 事業化モデル：事業化のモデルとして（1）NPO，（2）起業，（3）大学でのプロジェクトにつき検討し，現在のところ（3）を進めている。立命館大学人間科学研究所の一プロジェクトとして位置付けていただき，経費を申請中である。しかし，これにとどまらず，（4）省庁への働きかけ，（5）NPOとの協同についても検討している。



- 研修トレーナーとの契約：トレーナーとどのような活動ができそうか、検討中である。
- 研修で用いる教材等の扱い：知財について弁理士に相談し、改変・流出等のリスクマネジメントを検討したいと考えているが、具体的に何をどのように検討すればよいか行き詰まっている。

### 【羽渕グループ】

#### 実験研究Ⅰ・Ⅱ：

#### 1. 今年度の到達点①：通訳介入が必要な外国人に対する司法面接法の開発 実施項目

- 通訳介入時の司法面接のガイドラインの作成（8～9月）
- 通訳者を対象とした司法面接研修プログラムの開発と研修（8月～9月）
  - ・ iIIRG(International Investigative Interview Research Group)のマスタークラスに参加して通訳介入司法面接の方法について情報収集をおこない、国連難民高等弁務官（UNHCR）在日事務所が発行している通訳研修テキストや研修マニュアル、米国の少数言語話者の子どもを対象とした司法面接のマニュアルなどを参考に研修案を作成した。その後、以下のワークショップを開催して、実務家から意見を収集した。
  - ・ 通訳介入が必要な外国人に対する司法面接ワークショップ（2017年9月5日）：専門家（検察官・警察官・児童相談所職員）および通訳者を対象。愛知県日進市の名古屋学芸大学において通訳介入が必要な外国人に対する司法面接ワークショップを開催した。仲班，田中班，羽渕班合同でおこなった。
- 日本語教育関係者を対象とした司法面接研修（2017年11月4日）
  - ・ やさしい日本語による司法面接法ワークショップ（2017年11月）：日本語教育関係者を対象として、山口県周南市の徳山大学において、平易な日本語でおこなう司法面接ワークショップを開催した。仲班，羽渕班合同でおこなった。
- 効果測定
  - ・ ワorkshop参加者に事後アンケートを実施し、参加者（実務家，通訳者）から具体的な現状と課題について聴取した。その結果，通訳を介した面接では，面接者は全体を制御しにくいこと，被面接者とのラポールの形成が難しいことなどが明らかになった。また，通訳者については，通訳スキルや専門分野によってやり方に違いがあり，面接に先立って面接計画を入念におこなったり，面接のガイドラインを策定したりして，共通理解を得てから面接に臨む必要があることが明らかになった。さらに，通訳者との連携のためには，仲介や報酬や研修のシステムを整備する必要があることが明らかになった。
  - ・ 研修で得られたデータ，記録等を用いた分析により，さらに改良を検討した。

## 2. 今年度の到達点②：やさしい日本語版SAI（Self-Administered Interview）の効果測定と実装

### 実施項目

- 有用性の評価と検討（SAIを用いない自由報告とやさしい日本語版SAIを用いた報告の比較実験，6月～7月，10月）  
英語を母語とする日本語学習者を対象として，SAIを用いない記述報告（母語での記述による自由再生）と，「やさしい日本語版SAI」を用いた報告の比較実験を，立命館アジア太平洋大学（大分県別府市）でおこなった。計画ではオーストラリアでおこなう予定であったが，立命館アジア太平洋大学での実験実施が可能となったので変更して実施した。
- 汎用性の評価と検討（日本人児童を対象とした実験）  
小学校の教員に，児童を対象として利用することを想定してコメントをいただいたところ，「質問紙の情報量が多すぎる」というアドバイスをいただいた。そこで，子ども向けの改訂を検討したため，実施が遅れている。
- 現場（警察署，日本語学校，小中高等学校，補習授業校，フリースクール，大学など）でのユーザビリティ調査  
主にトレーナー研修などで広報をおこない，興味をもっていた機関に利用と説明会を打診したが，H29年度内に調整がつかず，保留中となっている。

## 3. 今年度の到達点③：日本語を母語としない対象者の日本語会話能力を簡便に査定する方法の開発

### 実施項目

- 簡易版日本語口頭能力判定ツールの開発
  - ・ インタビュー調査（4月～3月）：大学，短期大学，専門学校の外国人留学生を対象に判定ツールの質問項目選定に関わるインタビュー調査をおこない，データを取得し，分析をおこなった。
- 現場でのユーザビリティ調査
  - ・ 広報活動（日本語教育学会2017年度第9回支部集会【四国支部】交流ひろば）において，入試業務での使用について問い合わせのあった教育機関（短期大学）に打診したが，調整がつかなかった。

### フィードバック（社会実装）：

実務家参加型の研修会や研究会を企画し，現場のニーズの把握と，研究開発した成果物に対するフィードバックを得ながら社会実装を図った。

- やさしい日本語SAI広報活動  
主にトレーナー研修などで広報をおこない，興味をもっていた地域で説明会の開催を打診した。
- 外国人が対象となる場合の司法面接ワークショップ
  - ・ 通訳介入が必要な外国人を対象とした司法面接ワークショップ（@愛知県日進市 名古屋学芸大学2017年9月5日）（外部参加者20名：検察官，警察官，児童相談所職員，通訳者）
  - ・ 日本語教育学会共催 外国人とかかわる実務家のためのワークショップ-外国人から

話(体験)を聴く方法-司法面接(NICHD ガイドライン)を学ぼう-(@山口県周南市 徳山大学 2017年11月4日) (外部参加者14名:教育関係者,研究者,国際交流に関わる職員,企業関係者)

- メディエーターとなる専門家,教育関係者に向けて,現状の課題と情報共有,研究の広報を目的として以下のシンポジウムを開催した。
  - ・ 日本心理学会第81回大会公募シンポジウム(@福岡県久留米市 久留米シティプラザ 2017年9月)「司法における実践の心理学:日本で被告人となった外国人の心理査定」
  - ・ 日本教育心理学会第59回総会自主企画シンポジウム(@愛知県名古屋市 名古屋国際会議場 2017年10月)「学校からの虐待通告」
  - ・ 法と心理学会ワークショップ(@東京都世田谷区 成城大学 2017年10月15日)
    - ・ 「司法面接の新展開:外国人を対象とした司法面接の取り組み」
    - ・ 「司法における多専門・多職種連携と心理学:外国人被告人の心理査定」
  - ・ 日本語教育学会2017年度第9回支部集会(四国支部)交流ひろば(@愛知県松山市 愛媛大学 2017年12月16日), (参加者約30名:日本語教育関係者)
  - ・ 日本語教育学会2017年度第10回支部集会(関西支部)交流ひろば(@京都府京都市 龍谷大学 2018年3月24日), (参加者約40名:日本語教育関係者)
- 研究成果を学会で発表し,情報共有と研究の広報をおこなった。
  - 赤嶺亜紀(日本認知心理学会第15回大会,2017年6月)
  - 羽瀧由子(日本心理学会第81回大会,2017年9月)
  - 松尾加代(法と心理学会第18回大会,2017年10月)
  - 立部文崇(日本語教育学会2017年度第9回支部集会 四国支部,2017年12月)

#### 【田中グループ】

#### 1. 今年度の到達点①:心身のケアを含む多機関連携を促進するプログラムの開発と研修の実施

##### 実施項目①

- 心身のケアを含む多機関連携を促進するプログラムの検討会には,医療・心理ケアの実務家を含む31名の実務家が参加した。プログラムには,(1)多職種からなる円卓方式によるグループワークとディスカッション,(2)多職種チームでの虐待対応シミュレーション,(3)トラウマ症状を想定した子どもへの司法面接ロールプレイ,(4)同地域の専門家でのランチセッションによる参加者間のつながりの促進の4つの要素を導入した。医療機関や被害者支援NPOからの参加により,司法・福祉・心身のケアの連携についてより議論が深まった。検討会における参加者の意見や感想を,来年度実施するプログラムの開発に投入する。

## 2. 今年度の到達点②：地域での継続的な連携の場を提供する。

### 実施項目②

- 田中班メンバーと、臨床心理領域・認知心理領域の研究者、児童相談所や病院などで被害者支援を行っている心理専門職との勉強会を5回（大阪府、北海道、愛知県、東京都において）実施した。勉強会のテーマに応じて仲班のメンバーも加わり協働した。また、司法面接を実施するワンストップの機能をそなえた医療機関へのフィールドワーク（見学ならびに聴き取り）を実施した。

臨床心理領域・認知心理領域の研究者との勉強会では虐待によって子どもが受ける心理的な影響に関する最新の知見と研究動向を得た。また、被害者支援における心理専門職との勉強会では、司法手続きにおける心理ケアの関わりの実践例についての知見を得た。さらに、フィールドワークでは、性被害者支援における看護による支援と多職種連携について、知見や情報の共有をいただいた。

## 3. 発信・アウトリーチ

- 仲班・羽瀧班と協働で学会でのワークショップ等を企画・実施し（9月：日本心理学会、日本教育心理学会、通訳を介した司法面接ワークショップ、11月：法と心理学会）、要素研究の成果等を広く発信した。
- これまで実施した、司法面接と心身のケアとの連携研修（4回分）における質問票への回答をとりまとめ、回答集として編集して冊子化し、司法面接にかかわる実務家に配布し、広く知見を共有した（2月）。
- 田中班のメンバーが関与した警察や家庭裁判所の依頼による司法面接研修を7回実施し、のべ109名が参加した（9月から3月にかけて）。児童虐待のみならず、他の事案へ展開できるような方策を検討するため、警察だけでなく家庭裁判所の依頼による司法面接研修も実施し、家事事件での子どもの意向調査への司法面接の適用支援や、少年事件への適用についての意見交換を実施し、司法面接のより広い適用について検討した。
- 司法面接の予防的な導入に資するため、講演や簡易研修（教員免許更新講習や教育委員会の依頼によるもの）を2回実施し、のべ136名の教員、幼稚園教諭、養護教諭、保育士等が参加した（8月）。また、幼児の保護者(30名)へ「子どもから話を聴くこと」に関する知見の提供（保護者からの質問への回答と子どもから体験を聴く場合の方法についての資料集作成と配布）も行った（3月）。これにより、通告の前段階での適切な対応について学校現場や保護者に対し、司法面接の知見や適切な対応法について周知した。
- 大岡PJへの協力：大岡PJによる「兵庫県性教育研究会」に参加協力した（2017年11月2日、神戸市勤労会館）。

## 4. 要素研究

- 心身のケアを行う専門職を対象に、事実確認（司法面接）に関する認識について分析・調査を実施した。
- 聴取法により子どもから得られる情報の違いに関する実験的研究の分析を行った。
- 教職員を対象とした虐待通告に関する意識調査を実施し、分析を行った。
- 教員養成課程の学生を対象とした虐待通告に関する意識調査の結果を分析し、結果

を論文にまとめた。

- 多職種連携にかかわる実践の具体と今後に向けた展望に関するアンケート調査を質的に分析し、よりよい多職種連携のありようについて検討した（投稿予定）。
- 「子どもの司法面接とケア」についての知見をまとめ、書籍に執筆した。
- 司法面接と並行して実施可能な心理ケアについて、資料収集した。

### （3）当該年度の成果の総括・次年度に向けた課題

#### 1. 進捗状況

(1) 研修, (2) トレーナーの育成, (3) 司法面接の支援, (4) 基礎研究（「司法面接や多専門連携に関する意識」「通訳・仲介者を介した面接」「司法面接と心理臨床の連携」）に関し、本年度も〔基礎研究⇒研修（知見の提供）⇒フィードバック⇒基礎研究〕というサイクルを実行しながら活動を行った。

その結果 (1) 研修では 約1800名, (2) トレーナー研修では約20名の受講参加者があり、数知的な目標は達成した。また, (3) 司法面接の支援も順調に行われた。(4) 基礎研究の「司法面接や多専門連携に関する意識」「通訳・仲介者を介した面接」「司法面接と心理臨床の連携」についても、研修において知見の提供を行うとともに、学会、シンポジウム、論文、書籍での発表も行った。全体として進捗状況は順調であり、目標を越える成果が得られていると考える。

#### 2. 結果や成果を俯瞰するなかでわかったこと

以下のような波及的な作用が見られた。

- 対象者の広がり：従来の福祉機関、司法機関の専門家に加え、教育機関、医療機関、裁判所、矯正機関等の専門家や、通訳、臨床心理士などの受講もあった。対象者、対象領域は広がりつつある。
- 法的制度との関わり：後述するように、2017年に施行された「刑法の一部を改正する法律案に対する附帯決議」（参議院法務委員会）において、「聴取技法の普及」「関係機関の代表者が聴取を行う」など、聴取技法の普及や連携に関する項目が設けられた。

#### 3. 次年度に向けての課題と解決方法の検討

以下のような課題があり、解決のための方法を検討している。

- 研修プログラムの持続的提供：本プロジェクト終了後、どのように研修や司法面接支援を行っていくかが課題である。立命館大学人間科学研究科のプロジェクトとして継続する可能性や、NPO設立の可能性を模索する他、研修の参加・募集・資料配布等の手続きをできるだけ自動化する。
- 外国人に対する司法面接：活動を進めるなかで、日本においては福祉・司法手続きに関する通訳の公的資格制度が存在せず、通訳人の数も不十分であることが判明した。資格をもつ通訳人が司法面接を行うことができれば最良だが、それができない場合どうするかを、書式による情報収集の援用（SAI、やさしい日本語による面接）や関係者に対する注意喚起、ICT利用を通して追求する。
- 臨床心理の専門家とのさらなる連携：活動を進めるなかで、司法手続きに携わる臨床

心理士の数が少ないことや、臨床心理学的アプローチの多様性を理解・把握するに至った。臨床心理学の専門家に対し、福祉・司法の専門家との連携の重要性を強調するとともに、どの段階でどのようなアプローチが重要か、モデルを考えていく。

#### 【仲グループ】

- ・ 全体の達成目標：(1) 研修，(2) トレーナーの育成，(3) 司法面接の支援，(4) 基礎研究は順調に進み，特に(1)は，2015年が1309人，2016人が2287人，2017年が1881人であり，目標の216人をはるかに越えている。(2)についても2016年と2017年で55名となっており，目標を越えた。
- ・ H29年度の目標：(1) 立命館大学における司法面接室の設置，(2) プログラムの開発と知識・技能の提供・維持，(3) 現実の事例に対する知識やスキルの使用の支援，(4) 発信・アウトリーチ・提言，(5) 要素研究についても，上記に示した通り，順調に進んでいる。ただし，追加した達成目標(6) 専門連携による司法面接の普及・定着に向けた事業モデルの検討については，立命館大学人文科学研究科プロジェクトへの参加，インタビュー調査と冊子の作成，アンケート等を実施したが，無理なく持続的に経費を確保し，研修や面接支援を行う体制の構築には至っていない。
- ・ 今後の課題と目標：H29年度の目標(1) - (5)を維持しつつ，(6)について様々な可能性を検討したい。具体的には，(a) 省庁への働きかけ，(b) 自治体への働きかけ，(c) 人文科学研究科プロジェクト維持の試み(研修の有料化の検討)，(d) 外部NPOへの協力，(e) その他，について検討を進める。知財に関しては，チーム内に知識をもつものがおらず，行き詰まっている。

#### 【羽渕グループ】

- ・ 全体の達成目標：(1)資料収集，(2)実験研究Ⅰ(通訳や仲介者の効果・影響)，(3)実験研究Ⅱ(情報を収集するツールの開発)，(4)研修フィードバック(社会実装)は，ほぼ順調に進んでいる。
- ・ H29年度の目標：(1)通訳介入が必要な外国人に対する司法面接法の開発，(2)やさしい日本語版SAI(Self-Administered Interview)の効果測定と実装，(3)日本語を母語としない対象者の日本語会話能力を簡便に査定する方法の開発，(4)社会実装は，ほぼ計画に沿って進んでいるが，研修で取得する参加者のデータ(ロールプレイなどで録音・録画するデータ，面接計画の立案時のグループで作成したメモなど)の二次利用(改善のための分析や検討会での共有)についての扱い方法，研究成果の発表・公開，社会実装の際の，知財管理(許諾申請，著作権の扱い)について専門的知見に乏しく，研究活動に制約感をもたらし，ボトルネックになっている。
- ・ 今後の課題と目標：研究成果の公開，社会実装に向けて準備をすすめる。特に，海外の先行研修や実験調査から導き出された研究・開発成果や提案について，日本の現場の実務に適合しやすいものか，親和性はどうかなどについて，ICTを利用した解決策も検討しながら実用化を目指す。

#### 【田中グループ】

- ・ 全体目標とH29年度までの達成状況：田中班の全体計画における目標は，多専門連携による司法面接を可能にする知見，特に，心身のケアと事実確認の連携の在り方について

の知見をまとめることと、心身のケアと事実確認の連携を促進する研修プログラムの開発である。研修プログラムの開発については、文献からの情報収集、実務家へのインタビュー調査等をふまえたプログラムの提案と実施、参加者からのフィードバックによる改善といったプロセスを繰り返しながら、来年度最終的なプログラムの開発と実施を目指し、概ね順調に進んでいる。また、児童虐待のみならず、他の事案へ展開できるような方策として、家庭裁判所における家事・少年事件での子どもの意向調査への司法面接の適用支援も実施した。さらに、教育機関への簡易研修、保護者への知見の提供など司法面接の予防的な導入に資する活動も積極的に進めている。

- ・ 今後の課題と目標：当初、研修への心身のケアを担う実務家の参加が少なかったが、徐々に医療分野からの参加や、被害者支援に関わる臨床心理士からの協力を得られる状況が出来つつあり、それらの協力者からの情報収集を進めている。そもそも司法領域に関与する臨床心理士の数は多くはないという根本的な事情が背景にはあるが、心理ケアを担う多くの専門家に司法面接について周知する活動も必要であろう。もっとも、被害者支援に関わる臨床心理士への聴き取りや、公認心理師における現任者講習における「司法面接」の取り上げ状況等について情報収集を始めている。また、アタッチメントの形成と不全に関する研究を進めている心理臨床の専門家との協働を実質的に開始しつつある。このように、数は少ないながらも関連する心理臨床の専門家との地道な関係構築と協働可能性の探求を、着実に進めていくことが重要であると考えている。
- また、これまでのプロジェクト内での仲班・羽渕班との協働の効果は大きく、田中班の研修・検討会の企画・実施には、他班から多大な支援を受けた。プロジェクト内の協働体制も維持しつつ、最終年度は、他プロジェクト間との知見の提供・供与も積極的に検討したい。





## 2 - 3. 会議等の活動

年月日	名称	場所	概要
2017/04 ~ 2018/03	研究打ち合わせ	立命館大学総合心理学部	仲グループ 随時
2017/04/07	研究打ち合わせ	大阪市内	田中グループ H29年度の実施項目 (田中晶子・安田・上宮)
2017/04/29	研究打ち合わせ	立命館大学 大阪いばらき キャンパス	H29年度の実施項目 (羽瀧・赤嶺・田中晶子・安田・上宮・田中周子・武田)
2017/04/30	研究相談	立命館大学 大阪いばらき キャンパス	羽瀧グループ H29年度の実施項目 (羽瀧・赤嶺・上宮)
2017/06/05	研究打ち合わせ	立命館大学 大阪いばらき キャンパス	田中グループ H29年度の実施項目 (田中晶子・安田・上宮)
2017/07/03	研究打ち合わせ	立命館大学 大阪いばらき キャンパス	田中グループ H29年度の実施項目 (田中晶子・安田・上宮)
2017/07/21	研究打ち合わせ	大阪市内	田中グループ H29年度の実施項目 (田中晶子・安田・上宮)
2017/07/26	研究打ち合わせ	大阪市内	田中グループ H29年度の実施項目 (田中晶子・上宮)
2017/07/28	検討会事前準備	立命館大学 大阪いばらき キャンパス	田中グループ H29年度の実施項目 (田中晶子・安田・上宮)
2017/08/01	通訳介入司法面接ワークショップ打ち合わせ	立命館大学 大阪いばらき キャンパス	9/5開催ワークショップの内容打ち合わせ (羽瀧・赤嶺・上宮)
2017/08/11	通訳介入司法面接ワークショップ打ち合わせ	兵庫県中央労働センター (神戸市)	9/5開催ワークショップの内容打ち合わせ (羽瀧・赤嶺・上宮)
2017/08/21	通訳介入司法面接ワークショップ打ち合わせ	名古屋学芸大学 (愛知県日進市)	羽瀧Gミーティング (羽瀧・赤嶺・立部・松尾)
2017/08/22	通訳介入司法面接ワークショップ打ち合わせ	名古屋学芸大学 (愛知県日進市)	9/5開催ワークショップのシミュレーション (羽瀧・赤嶺・上宮・立部・松尾)
2017/08/31	研究打ち合わせ	四天王寺大学 あべのサテライト	田中グループ H29年度の実施項目 (田中晶子・安田・上宮)

2017/09/02	研究紹介・広報打ち合わせ	東京都内	SAI広報打ち合わせ（羽渕・松尾・吉元）
2017/09/02	司法福祉学会打ち合わせ	東京都内	司法福祉学会の分科会の打ち合わせ（武田・羽渕・田中周子・赤嶺・他）
2017/09/04	通訳介入司法面接ワークショップ打ち合わせ	名古屋学芸大学（愛知県日進市）	9/5開催ワークショップの進行打ち合わせ（羽渕・赤嶺・上宮・立部）
2017/09/05	事後反省会	名古屋学芸大学（愛知県日進市）	9/5開催ワークショップの反省会（羽渕・赤嶺）
2017/09/22	研究打ち合わせ	久留米市内	田中グループ H29年度の実施項目（田中晶子・安田・上宮）
2017/10/07	発表打ち合わせ・反省会	名古屋国際会議場（愛知県）	発表打ち合わせ（羽渕・仲・田中周子・田中晶子）
2017/10/07	研究紹介・研究打ち合わせ	名古屋外国語大学，名古屋学芸大学（愛知県日進市）	大学院合同ガイダンス研究紹介，研究打ち合わせ（羽渕・赤嶺）
2017/10/17	ワークショップ打ち合わせ	Web会議	11/4開催 ワークショップ打ち合わせ（羽渕・立部・上宮）
2017/10/23	司法面接の説明	立命館大学衣笠キャンパス	立命館大学人間科学研究所に司法面接の説明（仲・武田・他）
2017/10/31	研究打ち合わせ	四天王寺大学あべのサテライト	田中グループ H29年度の実施項目（田中晶子・安田）
2017/11/03	ワークショップ打ち合わせ	徳山大学（山口県周南市）	11/4開催 ワークショップ打ち合わせ（羽渕・立部・松尾・赤嶺）
2017/11/20	研究打ち合わせ	四天王寺大学あべのサテライト	田中グループ H30年度の実施項目（田中晶子・中神）
2017/11/23	研究打ち合わせ	立命館大学大阪いばらきキャンパス	田中グループ H29年度の実施項目（田中晶子・安田）
2017/11/24	研究打ち合わせ	立命館大学大阪いばらきキャンパス	仲グループ研究打ち合わせ（仲・上宮・武田）
2017/12/02	勉強会・研究打ち合わせ	東京都内	田中グループ H29年度の実施項目（田中晶子・安田・他）
2017/12/26	研究打ち合わせ	四天王寺大学あべのサテラ	田中グループ H29年度の実施項目（田中晶子・安田）

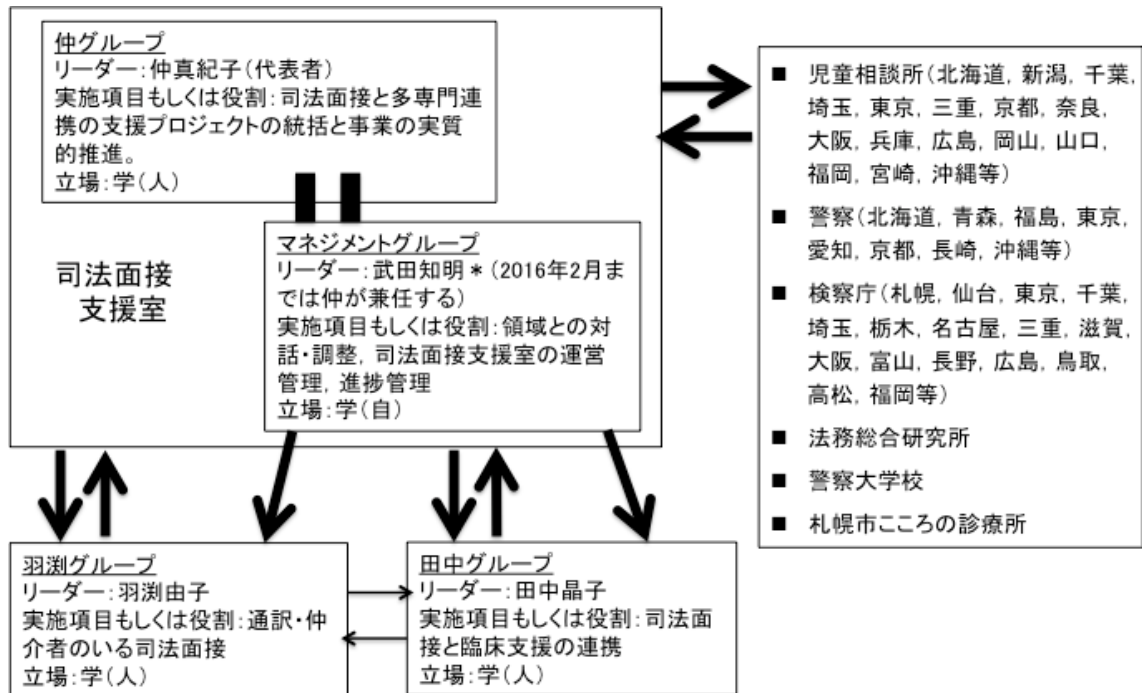
		イト	
2018/01/05	研究打ち合わせ	四天王寺大学 サテライト, あべの	田中グループ H29年度の実施項目 (田中晶子・安田)
2018/01/19	勉強会・研究打ち合わせ	大阪市内	田中グループ H29年度の実施項目 (安田・他)
2018/02/07	全体会議の後会議	立命館大学 大阪いばらき キャンパス	全体会議の振り返りと30年度の計画 (仲・羽瀧・田中晶子・上宮・武田)
2018/02/22	勉強会・研究打ち合わせ	札幌市内	田中グループ H29年度の実施項目 (田中晶子・安田・上宮・他)
2018/03/08	プレスセミナー 打ち合わせ	立命館大学 大阪いばらき キャンパス	仲グループ プレスセミナー打ち合わせ (仲・上宮・武田・他)
2018/03/12	勉強会・研究打ち合わせ	名古屋市内	田中グループ H29年度の実施項目 (田中晶子・安田・上宮・他)
2018/03/13	研究打ち合わせ	立命館大学 大阪いばらき キャンパス	田中グループ H29年度の実施項目 (田中晶子・安田・上宮)
2018/03/13	羽瀧G会議	Web会議	H29年度進捗状況の報告とH30年度計画について (羽瀧・立部・赤嶺・松尾)
2018/03/14	発表打ち合わせ (1)	Web会議	3/24開催 日本語教育学会支部集会交流ひろばの打ち合わせ (羽瀧・赤嶺・上宮)
2018/03/21	勉強会・研究打ち合わせ	東京	田中グループ H29年度の実施項目 (田中晶子・安田・田中周子・他)
2018/03/22	発表打ち合わせ (2)	Web会議	3/24開催 日本語教育学会支部集会交流ひろばの打ち合わせ (羽瀧・赤嶺・上宮)
2018/03/24	研究打ち合わせ	龍谷大学深草 キャンパス, 京都市内	H30年度通訳介入司法面接研修の計画について (羽瀧・赤嶺・上宮)

### 3. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

- 連携による司法面接の実施：「協同面接」の通知が出た2015年10月以降、2017年3月までに実施された協同面接は377件であった。児童相談所が設置されている69都道府県等のうち、54で協議が行われ、43で協同面接がなされている（静岡新聞、2017. 11. 19による）。なお、厚生労働省の資料によれば、面接を行っているのは主として検察官、児童相談所職員であり、場所は児童相談所または検察庁である。また、面接は主としてモニターのある部屋で行われ、録音録画がなされている。
- 刑法の改正：2017年6月に、刑法の一部を改正する法律が施行された。この法律の付帯決議八に以下のような文言が記載されている。「児童が被害者である性犯罪については、その被害が特に深刻化しやすいことなどを踏まえ、被害児童の心情や特性を理解し、二次被害の防止に配慮しつつ、被害児童から得られる供述の証明力を確保する聴取技法の普及や、検察庁、警察、児童相談所等の関係機関における協議により、関係機関の代表者が聴取を行うことなど、被害児童へ配慮した取組をよりいっそう推進していくこと。」さらなる研修や連携の普及につながるものと期待される。  
<http://www.npa.go.jp/laws/notification/keiji/keiki/keiki-290623/keiki-290623keihou.pdf>

#### 4. 研究開発実施体制

本プロジェクトは、以下の3つのグループから成る。なお、許可をいただいたトレーナーは随時協力者のリストに加えていく。



##### (1) 仲グループ

①仲 真紀子 (立命館大学、教授)

②実施項目: 多専門連携による司法面接の推進と実事例支援

概要: 仲グループは、本プロジェクトの企画立案、実施の主体を担う。マネジメントグループと一体となって司法面接室を構成し、本プロジェクトのエンジンとなって以下の活動を行う。

- 司法面接の技能習得と「多専門連携を推進する研修プログラム」の開発・改善
- 実務家への研修とフィードバックの収集
- トレーナーの育成
- 実事例への対応と事例的検証
- アウトリーチ・提言
- プログラムを構成する要素研究
- 他PJとの連携研究 (H29年度は田村PJ,大岡PJと活動した)
- 羽渕グループと田中グループの研究, 研修の支援

以上の活動につき、「研修→フィードバック→基礎研究→プログラムの開発→研修」というサイクルを回しながら、プログラムの開発と実務家への提供を行い、成果の社会実装を図る。

## (2) 羽瀧グループ

### ①羽瀧 由子（徳山大学、教授）

#### ②実施項目：通訳・仲介者のいる面接のあり方と支援

概要：通訳、仲介者の介入が必要な対象者のための司法面接法を開発し、コミュニケーション弱者に対して弊害の少ない司法面接法を構築する。具体的には、以下の内容を実施する。

- 資料収集：通訳、仲介者のいる面接について資料収集を行う。
- 実験研究Ⅰ：通訳や仲介者の介入による効果・影響を検討する。通訳・仲介者が介入する場合に情報の質や量にどのような違いがあるのか、第三者による評価の違いなどを検討し、通訳、仲介者の介入が必要な対象者のための司法面接のガイドラインを構築する。
- 実験研究Ⅱ：通訳、仲介者が必要な対象者からより簡便に、負担なく情報を収集する方法、ツールについて開発をおこなう。
- 社会実装（フィードバック）：研究開発した成果物の有用性について現場の実務家からフィードバックを得ながら実用化を目指す。

## (3) 田中グループ

### ①田中 晶子（四天王寺大学、准教授）

#### ②実施項目：司法面接と心理臨床の連携

概要：事実確認と心身のケアとの効果的な連携について検討する。具体的には以下の活動を行う。

- 心身のケアを含む多機関連携促進のためのプログラムの開発
- 地域での継続的な連携の場の提供・実務家からの情報収集
- 発信とアウトリーチ
- 要素研究を分析し、結果をプログラム開発へ投入

## 5. 研究開発実施者

### 仲グループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
仲 真紀子	ナカ マキコ	立命館大学	総合心理学部	教授
武田 知明	タケダ トモア キ	立命館大学	OIC総合研究機構	研究員
上宮 愛	ウエミヤ アイ	立命館大学	OIC総合研究機構	専門研究員
田中 周子	タナカ シュウ コ	立正大学	心理臨床センタ ー	非常勤相談 員

### 羽瀨グループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
羽瀨 由子	ハブチ ヨシコ	徳山大学	福祉情報学部	教授
立部 文崇	タテベ フミタ カ	徳山大学	経済学部	准教授
赤嶺 亜紀	アカミネ アキ	名古屋学芸大学	ヒューマンケア 学部	准教授
松尾 加代	マツオ カヨ	慶應義塾大学	先導研究センタ ー	研究員

### 田中グループ

氏名	フリガナ	所属機関	所属部署	役職 (身分)
田中 晶子	タナカ アキコ	四天王寺大学	人文社会学部	准教授
安田 裕子	ヤスダ ユウコ	立命館大学	総合心理学部	准教授

## 6. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

### 6-1. シンポジウム等

年月日	名称	場所	参加人数	概要
2017/05/20	神奈川県（川崎市民アカデミー）研修	神奈川県	11名	司法面接（NICHD）研修
2017/05/26	埼玉県 児童相談所 研修	埼玉県	24名	司法面接（NICHD）研修
2017/05/28	東京都（子育てアドバイザー協会）研修	東京都	12名	司法面接（NICHD）研修
2017/06/06	長崎地方検察庁 研修	長崎県	28名	司法面接（NICHD）研修
2017/07/07	三重県 警察 研修	三重県	約70名	司法面接（NICHD）研修
2017/07/11	岡山県 警察 研修	岡山県	112名	司法面接（NICHD）研修
2017/07/19	北海道（札幌市教育委員会）研修	北海道		司法面接（NICHD）研修
2017/07/24	東京都（法務総合研究所）研修	東京都	約40名	司法面接（NICHD）研修
2017/07/25-26	神奈川県 警察 研修	神奈川県	約100名	司法面接（NICHD）研修
2017/07/29-30	子どもと関わる実務家のための検討会	立命館大学 大阪いばらきキャンパス	31名	司法面接（NICHD）と心身のケアの連携検討会
2017/07/31-08/02	立命館大学トレーナー8月研修	立命館大学 大阪いばらきキャンパス	10名	司法面接（NICHD）トレーナー研修
2017/08/01-02	立命館大学8月司法面接研修	立命館大学 大阪いばらきキャンパス	37名	司法面接（NICHD）研修
2017/08/04	子育てネットワーク・河南講演会	大阪府	119名	教職員等対象講演（司法面接簡易研修）
2017/08/06	石川県（子どもを育む会）研修	石川県	53名	司法面接（NICHD）研修



2017/08/08	大阪府（警察庁近畿管区）研修	大阪府		司法面接（NICHD）研修
2017/08/16-17	東京都（弁護士）研修	東京都	12名	司法面接（NICHD）研修
2017/08/21	北海道（北海道障がい者虐待防止協会）研修	北海道	39名	司法面接（NICHD）研修
2017/08/28-29	北海道（児童相談所・警察）研修	北海道	51名	司法面接（NICHD）研修
2017/08/29	京都家庭裁判所自庁研修	京都府	18名	司法面接（NICHD）研修
2017/09/03	司法福祉学会	東京都（國学院大学）		仲・岡田・川端・吉元・田中・羽渕・武田
2017/09/05	通訳介入が必要な外国人を対象とした司法面接ワークショップ	愛知県（名古屋学芸大学）	22名	司法面接（NICHD）に基づく通訳者と実務家とのワークショップ
2017/09/06	名古屋家庭裁判所自庁研修	愛知県	15名	司法面接（NICHD）研修
2017/09/11-13	立命館大学トレーナー9月研修	立命館大学 大阪いばらきキャンパス	10名	司法面接（NICHD）トレーナー研修
2017/09/12-13	立命館大学9月司法面接研修	立命館大学 大阪いばらきキャンパス	37名	司法面接（NICHD）研修
2017/09/25-26	広島県児童相談所フォローアップ研修	広島県	26名	司法面接（NICHD）フォローアップ研修
2017/10/05-06	静岡県 警察 研修	静岡県	24名	司法面接（NICHD）研修
2017/10/07	日本教育心理学会自主企画シンポジウム	愛知県（名古屋国際会議場）	約20名	「学校からの虐待通告」（羽渕・田中周子・田中晶子・仲）
2017/10/10	前橋地方検察庁研修	群馬県	20名	司法面接（NICHD）研修
2017/10/15	法と心理学会第18回大会ワークショップ	東京都（成城大学）	約20名	「司法面接の新展開：外国人を対象とした司法面接の取り組み」
2017/10/15	法と心理学会第18回大会ワークショップ	東京都（成城大学）	約30名	「司法における多専門・多職種連携と心理学：外国人被告人の心理査定」
2017/10	兵庫県 児童相談所 研修	兵庫県	27名	司法面接（NICHD）研修

/17				
2017/10 /30-31	沖縄県 警察 研修	沖縄県	40名	司法面接 (NICHD) 研修
2017/11 /02	和歌山家庭裁判所研修	和歌山県	12名	司法面接 (NICHD) 研修
2017/11 /04	日本語教育学会支部活動 (中四国地区)	山口県 (徳 山大学)	14名	外国人を対象とした司法面接 (NICHD) について日本語 教育関係者向けワークショップ
2017/11 /03-14	鳥取県 (弁護士会) 研修	鳥取県	23名	司法面接 (NICHD) 研修
2017/11 /06	長崎県 警察 研修	長崎県	63名	司法面接 (NICHD) 研修
2017/11 /14	東京都 (法務総合研究 所) 研修	東京都	約40名	司法面接 (NICHD) 研修
2017/11 /18	日本心理学会公開シンポ ジウム「社会のための心理 学」	福岡大学		司法面接：被面接者への心理 的配慮と事実の解明 (仲・山 本・松尾・羽渕)
2017/11 /20-21	長野県 児童相談所 研修	長野県	39名	司法面接 (NICHD) 研修
2017/11 /20-21	三重県 児童相談所 研修	三重県	28名	司法面接 (NICHD) 研修
2017/11 /27-28	大分県 警察 研修	大分県	88名	司法面接 (NICHD) 研修
2017/12 /02	日本心理学会公開シンポ ジウム「社会のための心理 学」	立命館大学 大阪いばら きキャンパ ス		司法面接：被面接者への心理 的配慮と事実の解明 (仲・山本・松尾・羽渕)
2017/12 /04-05	岐阜地方検察庁研修	岐阜県	53名	司法面接 (NICHD) 研修
2017/12 /12	兵庫県警 性犯罪捜査専 科	兵庫県	30名	司法面接 (NICHD) 研修
2017/12 /16	日本語教育学会地区集会 (四国支部) 交流ひろば	愛媛県 (愛 媛大学)	約30名	外国人の日本語会話能力とレ ベル判定テストの研究開発に ついての紹介 (立部)
2017/12 /18	神奈川県 警察 研修	神奈川県	133名	司法面接 (NICHD) 研修
2017/12 /18	島根県 研修	島根県	22名	司法面接 (NICHD) 研修
2017/12 /19	岡山県 警察 研修	岡山県	30名	司法面接 (NICHD) 研修

2017/12 /19	鳥取県 研修	鳥取県	24名	司法面接 (NICHD) 研修
2017/12 /25-26	宮城県 児童相談所 研修	宮城県	21名	司法面接 (NICHD) 研修
2018/01 /12	福島県 児童相談所 研修	福島県	20名	司法面接 (NICHD) 研修
2018/01 /15-16	京都市 児童相談所 研修	京都府	32名	司法面接 (NICHD) 研修
2018/01 /20-21	司法面接トレーナー報告会	立命館大学 大阪いばら きキャンパ ス	40名	司法面接トレーナー報告会
2018/01 /23	福岡県 警察 研修	福岡県	167名	司法面接 (NICHD) 研修
2018/02 /16	和歌山家庭裁判所 研修	和歌山県	11名	司法面接 (NICHD) 研修
2018/02 /20-21	岩手県 児童相談所 研修	岩手県	32名	司法面接 (NICHD) 研修
2018/02 /23-24	兵庫県 (弁護士会) 研修	兵庫県	19名	司法面接 (NICHD) 研修
2018/02 /27	奈良家庭裁判所 研修	奈良県	12名	司法面接 (NICHD) 研修
2018/02 /27-28	宮崎県フォローアップ研修	宮崎県	32名	司法面接 (NICHD) フォロ ーアップ研修
2018/03 /02	和歌山家庭裁判所 研修	和歌山県	11名	司法面接 (NICHD) 研修
2018/03 /03-04	千葉県 児童相談所 研修	千葉県	36名	司法面接 (NICHD) 研修
2018/03 /05/06	愛知県 警察 研修	愛知県	60名	司法面接 (NICHD) 研修
2018/03 /08	札幌地方検察庁 研修	北海道	4名	司法面接 (NICHD) 研修
2018/03 /12	愛知少年サポートセンタ ー 研修	愛知県	130名	司法面接 (NICHD) 研修
2017/03 /24	日本語教育学会地区集会 (関西支部) 交流ひろば	京都府 (龍 谷大学)	約40名	外国人を対象とした司法面接 (NICHD) と研修の紹介 (羽瀨・赤嶺・上宮)

## 6-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など

### (1) 書籍、フリーペーパー、DVD

- ・繁榊算男・仲真紀子(2017). 信用できる／信用できない証言とは. 「連載3: 人生の智慧のための心理学」書齋の窓, 654, pp.34-39.
- ・赤嶺亜紀(2017). 書評 仲真紀子編著『子どもへの司法面接—考え方・進め方とトレーニング』. 法と心理学会(編), 法と心理 第17号, 日本評論社, pp.102-104.
- ・安田裕子(2017). 子どもの司法面接とケア. 指宿信(編), 犯罪被害者と刑事司法(シリーズ 刑事司法を考える 第4巻), 岩波書店, pp.192-209.
- ・仲真紀子(2017). 司法面接プロジェクトの昨今 Newsletter, JST RISTEX 「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」多専門連携による司法面接の実施を促進する研修プログラムの開発と実装プロジェクト, Vol. 3, p.1.
- ・上宮愛(2017). 2017年度 立命館大学 司法面接研修実施報告 Newsletter, JST RISTEX 「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」多専門連携による司法面接の実施を促進する研修プログラムの開発と実装プロジェクト, Vol. 3, p.2.
- ・武田知明(2017). 立命館大学の司法面接室とモニター室 Newsletter, JST RISTEX 「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」多専門連携による司法面接の実施を促進する研修プログラムの開発と実装プロジェクト, Vol. 3, p.2.
- ・田中晶子(2017). 司法面接と多機関連携検討会—心身のケアと被害確認の連携—報告 Newsletter, JST RISTEX 「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」多専門連携による司法面接の実施を促進する研修プログラムの開発と実装プロジェクト, Vol. 3, p.3.
- ・赤嶺亜紀(2017). 「通訳介入司法面接検討会」報告 Newsletter, JST RISTEX 「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」多専門連携による司法面接の実施を促進する研修プログラムの開発と実装プロジェクト, Vol. 3, p.4.
- ・羽瀧由子(2017). 「通訳介入が必要な外国人を対象とした司法面接ワークショップ」報告 Newsletter, JST RISTEX 「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」多専門連携による司法面接の実施を促進する研修プログラムの開発と実装プロジェクト, Vol. 3, p.4.
- ・上宮愛(2017). 2017年度 立命館大学トレーナー研修 Newsletter, JST RISTEX 「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」多専門連携による司法面接の実施を促進する研修プログラムの開発と実装プロジェクト, Vol. 3, p.5.
- ・上宮愛(2017). 司法面接を学ぶ@ひょうご Newsletter, JST RISTEX 「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」多専門連携による司法面接の実施を促進する研修プログラムの開発と実装プロジェクト, Vol. 3, p.5.
- ・仲真紀子(2018). 司法, 福祉, 心理の専門家による虐待認知: 仮想的な虐待への対応の種類と頻度に関する認識) Newsletter, JST RISTEX 「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」多専門連携による司法面接の実施を促進する研修プログラムの開発と実装プロジェクト, Vol. 4, p.2.
- ・武田知明(2018). 司法面接で聴取される情報の記録・整理のためのアプリケーション: ネットワーク昨日の追加 Newsletter, JST RISTEX 「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」多専門連携による司法面接の実施を促進する研修プログラムの開発と実装プロジェクト, Vol. 4, p.2.

- ・ 上宮愛(2018). 子どもへの聞き取りにおいて補助物を用いることの効果) Newsletter, JST RISTEX 「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」多専門連携による司法面接の実施を促進する研修プログラムの開発と実装プロジェクト, Vol. 4, p.2.
  - ・ 田中晶子(2018). 司法面接と心理臨床の連携（要素研究について） Newsletter, JST RISTEX 「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」多専門連携による司法面接の実施を促進する研修プログラムの開発と実装プロジェクト, Vol. 4, p.3.
  - ・ 安田裕子(2018). 執筆紹介「子どもの司法面接とケア」 Newsletter, JST RISTEX 「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」多専門連携による司法面接の実施を促進する研修プログラムの開発と実装プロジェクト, Vol. 4, p.3.
  - ・ 立部文崇(2018). 日本語を母語としない対象者が供述場面で必要となる日本語会話能力とは～実際の場面での利用を目指した簡易型日本語会話能力評価テストの開発～ Newsletter, JST RISTEX 「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」多専門連携による司法面接の実施を促進する研修プログラムの開発と実装プロジェクト, Vol. 4, p.4.
  - ・ 松尾加代・羽瀨由子(2018). 目撃者遂行型調査（SAI：Self-Administrated Interview）やさしい日本語版の開発 Newsletter, JST RISTEX 「安全な暮らしをつくる新しい公／私空間の構築」多専門連携による司法面接の実施を促進する研修プログラムの開発と実装プロジェクト, Vol. 4, p.4.
  - ・ 田中晶子・上宮愛・仲真紀子・安田祐子(2018). 司法面接と心身のケアの連携 実務家研修 質問票回答集.
- (2) ウェブメディアの開設・運営、
- ・ JMOOC (2017)法心理・司法臨床：法学と心理学の学融Week1 講義3と4「目撃証言（1）（2）」
  - ・ JMOOC (2017)法心理・司法臨床：法学と心理学の学融Week2 講義1と2「司法面接（1）（2）」
  - ・ JMOOC (2017)法心理・司法臨床：法学と心理学の学融Week2 講義3「PTSDと被害の心理」と講義4「被害者支援と支援者支援」  
以上は、<http://gacco.org> における  
[https://lms.gacco.org/courses/course-v1:gacco+ga100+2018\\_03/about](https://lms.gacco.org/courses/course-v1:gacco+ga100+2018_03/about)
- (3) 学会（7-4.参照）以外のシンポジウム等への招聘講演実施等
- ・ 日弁連刑事弁護センター 供述分析研究会、仲真紀子「接見技術について-被疑者接見におけるオープン質問の活用-」、2017年4月17日、日本弁護士会館
  - ・ 札幌市教育委員会「子ども理解に関する研修」、仲真紀子「子どもの話をどう聞くか」、2017年7月18日、札幌市ちえりあ
  - ・ 札幌弁護士会研究会、仲真紀子「模擬評議の分析」、2017年8月30日、札幌弁護士会官
  - ・ 立命館大学「研究者のライフ・イベントとワーク・ライフ・バランス」シンポジウム、仲真紀子「女性研究者とワーク・ライフ・バランス～デュアルな生活～」2017年12月10日、立命館大学大阪いばらきキャンパス

- ・ トレーナー報告会（ミニ学会）、田中晶子・安田裕子・上宮愛「事実確認と心身のケアの連携を促進する研修プログラムの開発（経過報告）」、2018年1月21日、立命館大学大阪茨木キャンパス
- ・ トレーナー報告会（ミニ学会）、羽瀧由子・赤嶺亜紀・立部文崇・松尾加代「外国人への司法面接：通訳・仲介者のいる面接のあり方と支援」、2018年1月21日、立命館大学大阪茨木キャンパス
- ・ 大阪弁護士会「司法面接PTに関する勉強会」、仲真紀子「司法面接の基礎と運用」、2018年2月7日、大阪弁護士会館
- ・ 田村PJ「児童虐待事案における警察の刑事的介入の現状と課題」、仲真紀子「司法面接の現状と課題」、2018年2月22日、アーク半蔵門
- ・ 首都大学東京シンポジウム、仲真紀子「子どもへの司法面接」、2018年3月15日、首都大学東京
- ・ 沖縄県性暴力被害者ワンストップ支援センター医療関係者研修、仲真紀子「子どもへの事実確認-司法面接の方法を用いて」、2018年3月18日、沖縄県医師会館

### 6-3. 論文発表

#### (1) 査読付き (15件)

##### ●国内誌 (13件)

- ・ 仲真紀子 (2017). 「子ども時代の逆境的体験 (ACEs)」と貧困-逆境的体験から子どもを救う目と耳と心. 学術の動向, 22(10), 39-43.
- ・ 仲真紀子 (2017). 指定討論2 司法面接研修実施者の立場から 法と心理学会題17回大会ワークショップ 多専門・多職種連携による司法面接の展開-一通達からの1年を振り返り、今後の展開を考える-. 法と心理, 17(1), 51-53.
- ・ 仲真紀子 (2017). 刑事司法と心理学-心理学的知見の予防的使用と司法面接-. 罪と罰, 54(4) (通巻216号), 10-21.
- ・ 仲真紀子 (2017). 司法面接の四つの特徴と応用：自由報告，構造，録音録画，多機関連携. 刑政, 128, 11, 50-60.
- ・ 仲真紀子 (2017). 録音録画面接における子どもの供述-質問の仕方，カメラパースペクティブ，専門家証人が信用性判断に及ぼす効果-問上石圭一・大塚浩・武蔵勝宏・平山真理 (編). 現代日本の法過程. 宮澤節生先生古稀記念論文集.(下巻 pp.345-368). 信山社.
- ・ 仲真紀子 (2017). 性的虐待の調査 (司法面接) と多機関連携. 児童青年精神医学とその近接領域, 58(5), 676-680.
- ・ 仲真紀子 (2017). 実務における司法面接の課題：非開示にどう取り組むか. 心理学評論, 60, 404-418.
- ・ 仲真紀子 (2018). 法と人間科学の歩み. 法社会学, 84, 96-115.
- ・ 田中晶子 (2018). 虐待被害を疑った時の子どもからの聴き取り 養護教諭志望学生を対象とした意識調査から 四天王寺大学紀要, 65, 39-51.
- ・ 山本渉太・村橋美知子・渋谷友祐・山元修一・仲真紀子 (2017). 聴取者の態度・外見的特徴が事情聴取時の被聴取者の協力的態度に与える影響 (2). 北海道心理学研究, Vol. 39 (2017), 16-16
- ・ 山本渉太・渋谷友祐・仲真紀子・岩見広一 (2018). 捜査面接において被面接者か

ら真実の供述を得るための捜査員の方略. 法科学技術学会誌, 23(1), 45-55.

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jafst/advpub/0/advpub\\_727/article/char/ja/](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jafst/advpub/0/advpub_727/article/char/ja/) 2018.3.1アクセス

- ・ 羽瀧由子・赤嶺亜紀・安田裕子・田中晶子・仲 真紀子・三原 恵・主田英之 (2017). 第17回 法と心理学会ワークショップ報告 多専門・多職種連携による司法面接の展開：通達からの1年を振り返り、今後の展開を考える. 法と心理, 17, 47-54.
- ・ 松尾加代・三浦大志 (2017). 目撃証言を得るための新技法 一目撃者遂行型調査 (Self-Administered Interview©: SAI©) の紹介ー. 法と心理, 17, 77-85.

#### ●国際誌 (2件)

- ・ Matsuo, K. & Itoh, Y. (2017). The effects of limiting instructions about emotional evidence depend on need for cognition. *Psychiatry, Psychology and Law*. [Advance online publication] doi:10.1080/13218719.2016.1254588
- ・ Naka, M. (2018). Memory practice in society: Eyewitness memory in children and investigative interviews. T. Tsukiura, and S. Umeda (Eds.) *Memory in Social Context: Brain, Mind, and Society*. Tokyo, Japan: Springer. Pp. 297-308.

#### (2) 査読なし (3件)

- ・ 仲真紀子 (2017). 私のキャリアパス. 日本心理学会若手の会NEWS LETTER, 2 (2), 3-4.
- ・ 仲真紀子 (2017). 子どもを支えながらどのように話を聴き取るか：司法面接, 臨床心理学, 17 (6), 773-775.
- ・ 仲真紀子 (2017). 2016年度 臨床教育シンポジウム. 子どもの証言と裁判：司法面接の取り組み (講演録). 武庫川女子大学大学院臨床教育研究科研究誌. (23) 145-162

### 6-4. 口頭発表 (国際学会発表及び主要な国内学会発表)

#### (1) 招待講演 (国内会議 6件、国際会議 0件)

- ・ 仲真紀子 (2017). 法と心理学. 法社会学会70周年記念シンポジウム基調講演「隣接分野と法社会学の対話」, 2017年5月27日, 早稲田大学
- ・ 仲真紀子 (2017)「子ども時代の逆境体験 (ACE)」と貧困. 日本心理学会公開シンポジウム「貧困社会を考える：心理学は何ができる」, 2017年8月26日, 東京大学駒場キャンパス, 2017年12月9日, 京都女子大学
- ・ 仲真紀子 (2017). 司法面接の現状と課題. 法福祉学会シンポジウム「司法面接の多様性と実務の課題」. 國學院大學 渋谷キャンパス 1号館1306講義室, 2017年9月3日
- ・ 仲真紀子 (2017) 子どもから話をどう聴くか-司法面接の現状と展開-. 日本心理学会公開シンポジウム「司法面接：被面接者への配慮と事実の解明」 2017年11月18日, 福岡大学, 2017年12月2日, 立命館大学
- ・ 羽瀧由子 (2017). ことばの壁をどう乗り越えるか：日本語が母語でない人に対する司法面接. 日本心理学会公開シンポジウム・社会のための心理学シリーズ「司法面接：被面接者への心理的配慮と事実の解明」 2017年11月18日、福岡大学, 2017年12

月2日、立命館大学

- ・ 松尾加代 (2017). 目撃者遂行型調査—質問紙による目撃情報の収集—. 日本心理学会公開シンポジウム・社会のための心理学シリーズ「司法面接：被面接者への心理的配慮と事実の解明」2017年11月18日（福岡大学），2017年12月2日（立命館大学）

### （2）口頭発表（国内会議 11件、国際会議 0件）

- ・ 仲真紀子 (2017). 日本発達心理学会からの海外情報発信—英書刊行をステップに飛躍を—。日本発達心理学会出版企画委員会. 指定討論. 日本発達心理学会 第28回大会. 3月25日、広島国際会議場 JMSアステールプラザ 広島市文化交流会館
- ・ 仲真紀子（司会）(2017). 1) ITL-003 内田伸子先生国際賞受賞講演「児童虐待からの再生—児童虐待は脳の成熟にどのように影響を与えるか—」。日本心理学会第81回大会. 2017年9月20日、久留米大学
- ・ 仲真紀子 (2017). ITL-006 感情情報の認識における文化の影響 --文化神経科学によるアプローチ--。久留米座 日本心理学会第81回大会. 2017年9月21日、久留米大学
- ・ 仲真紀子 (2017). SS-053 司法心理学(forensic psychology)の可能性. 日本心理学会第81回大会. 2017年9月21日、久留米大学
- ・ 仲真紀子 (2017). 嗜好品摂取によって得られる心理学的効果に及ぼす記憶の役割を探る、指定討論. 日本心理学会第81回大会. 久留米大学、2017年9月22日
- ・ 赤嶺亜紀・田中周子・仲真紀子・柴田勝之・尾崎友里加 (2017). 司法における実践の心理学：日本で被告人となった外国人の心理査定. 日本心理学会第81回総会自主企画シンポジウム. 2017年9月22日、久留米シティプラザ
- ・ 赤嶺亜紀・田中周子・田中晶子・柴田勝之・尾崎友里加・仲真紀子 (2017). 司法における多専門・多職種連携と心理学：外国人被告人の心理査定. 法と心理学会第18回大会ワークショップ. 2017年10月15日、成城大学
- ・ 羽瀨由子・田中周子・渡邊元嗣・齋藤祐子・田中晶子・仲真紀子・笠原正洋 (2017). 学校からの虐待通告：迅速な通告と有機的な多機関連携に向けて. 日本教育心理学会第59回総会自主企画シンポジウム. 2017年10月7日、名古屋国際会議場
- ・ 羽瀨由子・Jakob Marszalenko・上宮愛・水野真木子・井上智義 (2017). 司法面接の新展開：外国人を対象とした司法面接の取り組み（法と心理学会第18回大会ワークショップ）2017年10月15日、成城大学
- ・ 立部文崇 (2017). 上級以上と中級以下を簡便に判定する会話能力判定テストの開発と紹介. 2017年度 日本語教育学会 四国支部支部集会（交流ひろば）. 2017年12月16日、愛媛大学
- ・ 羽瀨由子・赤嶺亜紀・上宮愛 (2018). 誘導せずに相手から話を聴く方法-NICHDガイドラインに基づく面接を体験してみよう-. 2017年度 日本語教育学会 関西支部支部集会（交流ひろば）. 2018年3月24日、龍谷大学

### （3）ポスター発表（国内会議 11件、国際会議 0件）

- ・ 仲真紀子 (2017). P1-63 司法面接に関わる多機関連携:有用性、実施状況と阻む要因—事実確認に携わる専門家の意識—. 日本発達心理学会 第28回大会. 2017年3月25日(土)~27日(月). 広島国際会議場 JMSアステールプラザ 広島市文化交流会館
- ・ 仲真紀子 (2017). 1D-036 司法, 福祉, 心理の専門家による虐待認知-仮想的な虐待



への対応の種類と頻度に関する認識- 日本心理学会第81回大会. 2017年9月20日、久留米大学

- ・ 胡政飛・仲真紀子 (2017). 2C-059 (連名) バイリンガルによる目撃供述と司法通訳の効果 母語, 第二言語, 通訳を介した供述の特徴. 日本心理学会第81回大会. 2017年9月21日、久留米大学
- ・ 武田知明・仲真紀子 (2017). 司法面接で聴取される情報の記録・整理のためのアプリケーション:ネットワーク機能の追加. 日本教育工学会 第33回全国大会プログラム. 2017年9月16日、島根大学松江キャンパス
- ・ 田中晶子 (2017). 虐待被害を疑った時の子どもからの聴き取り 養護教諭志望学生を対象とした意識調査から. 第81回日本心理学会. 2017年9月21日、久留米シティプラザ
- ・ 番匠谷博之・仲真紀子 (2017). P4-59 自閉性傾向が言語隠蔽効果に与える影響の検討. 日本発達心理学会 第28回大会. 2017年3月25日(土)~27日(月)、広島国際会議場 JMSアステールプラザ 広島市文化交流会館
- ・ 村井文香・加藤弘通・仲真紀子 (2017). 1D-090 (連名) . 青年期における“キャラ”と自己形成—高校生は“キャラ”をどうとらえているのか?. 日本心理学会第81回大会. 2017年9月20日、久留米大学
- ・ 村井史香・仲真紀子 (2017). P1-58 未来の出来事に対する予測の正確さと抑うつ傾向との関連 —抑うつリアリズムの観点から—. 日本発達心理学会 第28回大会. 2017年3月25日(土)~27日(月)、広島国際会議場 JMSアステールプラザ 広島市文化交流会館
- ・ 赤嶺亜紀 (2017) . 非日本語話者への事実確認面接. 日本認知心理学会第15回大会. 2017年6月3日、慶應義塾大学
- ・ 羽瀨由子 (2017) . 非日本語母語話者を対象とした日本語による司法面接: NICHD プロトコルを用いた検討. 日本心理学会第81回大会. 2017年9月22日、久留米シティプラザ
- ・ 松尾加代・三浦大志 (2017) 想起の場所が目撃者遂行型調査に及ぼす影響. 第18回法と心理学会. 2017年10月14日、成城大学

## 6-5. 新聞報道・投稿、受賞等

### (1) 新聞報道・投稿 (5件)

- ・ 産業経済新聞、2017-08-28-夕刊-1面、虐待児童の「記憶」正しく聞き取り-警察・検察・児相「司法面接」で連携-
- ・ 毎日新聞、2018-01-24-福岡、司法面接 県内初の研修-子どもに負担かけず 正確に-
- ・ 朝日新聞、2018-01-31-福岡、「司法面接」学ぶ研修会-虐待などの被害児童 心の負担軽減-
- ・ 読売新聞、2018-02-01-福岡、被害児童の面談方法考える-県警察本部で研修会 170人参加-
- ・ 毎日新聞、2018-02-04-社会面、虐待判断別れる現場-司法面接試行錯誤-

(2) 受賞 ( \_\_ 0件)

(3) その他 ( \_\_ 0件)

#### 6-6. 知財出願

国内出願 ( \_\_ 0件)